

# 第7回 Issue駆動開発① 設計とゲートレビュー

Phase 3 | Issue駆動開発 / 講義2h + ワークショップ6h

## この回のねらい

- Issueを起点に、AIに方針提案させ、人がゲートレビューで品質を担保するサイクルを確立する
- 「良いIssue」の構造を体得する
- すべての経過をIssueに記録する = 属人化解消・追跡可能性

## Issue駆動開発のワークフロー

- ① Issue作成（人）
- ② AIが調査し修正方針をIssueにコメント
- ③ 人がゲートレビュー（方針OK / 修正指示）
- ④ AIが実装
- ⑤ 動作確認 → ⑥ PR作成・マージ（第8回）

Issue = 全対話と意思決定の集約拠点

## 良いIssueの構造（最重要）

- **概要**：何をしたいか
- **現状**：今どうなっているか／問題点
- **期待する動作**：どうなれば正解か
- **受け入れ条件**：満たすべきチェックリスト（**検証可能な形で**）

## ゲートレビューと記録

- **ゲートレビュー**=各ステップに人の承認を挟み、暴走を防ぐ品質ゲート
- いきなり実装させず **方向を合わせてから** 実装 → 手戻り激減
- 方針・影響範囲・確認結果がIssueに残る  
→ 過去の意思決定を追跡可能／誰でも引き継げる

## ワークショップ (6h)

1. 実務課題から **構造化Issue** を1件作成
2. Claude Codeに渡し、**修正対象・方針・影響範囲** をIssueにコメントさせる
3. **ゲートレビュー** → 方針を更新させる (OKまで往復)
4. 承認後に実装 → diffレビュー → 経緯をIssueに記録

# 回のゴール

構造化Issueを起点に、AIの **方針提案** →  
**ゲートレビュー** → **実装** のサイクルを回せる。

**OJT課題**：実務で構造化Issueを1～2件作成し、方針提案まで実施